

団地の共同菜園におけるコミュニティ形成に関する研究

—浜甲子園キッチンガーデンクラブを事例に—

西 明日香

[指導教員：武庫川女子大学講師 水野優子]

キーワード：団地、共同菜園、コミュニティ、浜甲子園キッチンガーデンクラブ

1. 研究の背景

我が国では今後急速な高齢化社会を迎えるといわれている。図1に示す国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」¹⁾における出生中位（死亡中位）推計によると、高齢人口（65歳以上）は、2010（平成22）年の2,948万人から、団塊の世代・第2次ベビーブームの世代が高齢人口に入った後の2042（平成54）年には3,878万人とピークを迎える。その後は人口減少に伴い高齢人口も比例して減少していく。高齢化率は2013（平成25）年には25.1%で4人に1人が、50年後の2060（平成72）年には39.9%で2.5人に1人が65歳以上の高齢者になると予測されている。こうした急速に高齢者人口が増加する社会背景の中で、親族との関係、社会や地域との繋がり希薄化といった高齢者の孤立化が問題となっている。そこで、現在必要とされているのは、人と人との繋がりを持つことである。高齢者のコミュニティや高齢者から若年者すべての世代を巻き込んだコミュニティづくりが求められている。

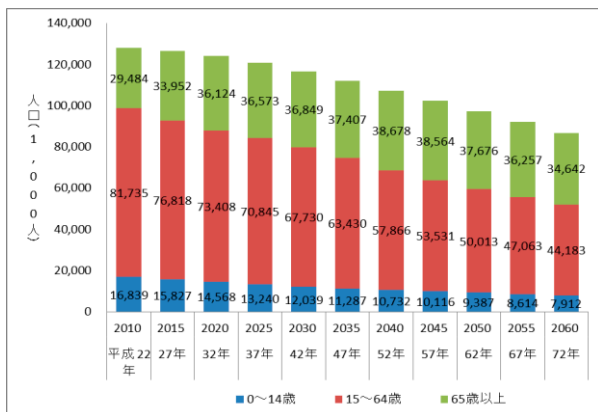


図1 人口の将来推計(2010~2060年)

2. 本研究の目的

現在、コミュニティ育成のために全国各地では多くの取り組みが行われている。しかし、計画的に取り組みられたそれらがすべて有効に機能しているとは限らない。中には機能していない例も数多く見られる。

そこで本研究では、高齢化が進む、UR 団地において団地建て替えをきっかけに地域のコミュニティ活動、自治活動の活性化を目的に2012（平成24）年4月にオープンした浜甲子園キッチンガーデンを調査対象地区とし、浜甲子園キッチンガーデンクラブ会員の菜園活動を通じた取り組みがコミュニティの形成に有効に機能しているのか、現在の利用状況を

明らかにすることを目的とする。また、オープンから1年が経過した現在の浜甲子園キッチンガーデンクラブ会員の交流に対する意識を明らかにし、良い面・悪い面・更なる改善点等を発見することにより、浜甲子園キッチンガーデンクラブが今後更により良いコミュニティ形成の場となるよう提案していくことを目的とする。

3. 研究の方法

3-1. 調査対象

本研究での対象地は、兵庫県西宮市の浜甲子園団地内にある浜甲子園キッチンガーデンとした。詳細を表1に示す。研究対象者は、浜甲子園キッチンガーデンを利用する浜甲子園キッチンガーデンクラブ会員とした。

表1 浜甲子園キッチンガーデン詳細

開設時期	2012年4月
区画	44区画 (1区画約4㎡)
付帯設備	倉庫2、水場3
1区画年額	3,000円
総会	年1回
世話役による役員会	毎月第3火曜日
定例会	毎月第3日曜日



3-2. 調査方法

観察調査、ヒアリング調査、アンケート調査を実施し、対象地における菜園活動を通じたコミュニティ育成の実態を把握し、有効性を考察した。各詳細を表2・3に示す。

表2 観察調査詳細

調査日	観察調査			
	夏		秋	
	休日	平日	休日	平日
	2013年8月3日 (土曜日)	2013年8月5日 (月曜日)	2013年11月17日 (日曜日)	2013年11月1日 (金曜日)
調査時間	6:00-18:00	6:00-18:00	7:30-16:53	6:19-17:06
実施場所	浜甲子園キッチンガーデン			
調査内容	滞在時間、挨拶や会話の有無、誰と挨拶・会話をしているか、会話時間			
調査員数	5人	5人	4人	2人
天気	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
日の出	5:10	5:12	6:35	6:19
日の入	19:00	18:58	16:53	17:06
気温(最高/最低)	32/26	33/27	18/10	21/14

表3 ヒアリング調査・アンケート調査詳細

ヒアリング調査		アンケート調査	
調査日	2013年 10月9日-11月21日	調査日	2013年 11月上旬-11月24日
調査方法	対面式ヒアリング	調査方法	URを通じた郵送(返送)
実施場所	浜甲子園キッチンガーデン	実施場所	—
調査内容	浜甲子園キッチンガーデンでの活動、交流、目的について	調査内容	定例会、収穫祭や忘年会などのイベント参加について
対象者数	42	対象者数	42
ヒアリング数	14	配布数	42
回答者数	10	回収数	36
回答率(%)	71.4	回収率(%)	85.7

4. 調査結果及び考察

4-1. 観察調査による結果、考察

表4より、キッチンガーデン内で挨拶又は会話が行われる確率を夏・秋比べても共に高い確率で行われており、季節に関係なくキッチンガーデン利用者間の交流が行われていることがわかった。また、キッチンガーデン利用者同士の会話内容は主に野菜や土づくり・肥料等菜園に関連する内容が多く、キッチンガーデンでの菜園活動自体がメンバー同士の会話の基をつくり、キッチンガーデン利用者間のコミュニケーションを円滑にしていると考えられる。

表4 観察調査の結果

調査日	観察調査結果			
	夏		秋	
	休日	平日	休日	平日
	2013年 8月3日(土)	2013年 8月5日(月)	2013年 11月17日(日)	2013年 11月1日(金)
人数(のべ人数)	27人(31人)	28人(33人)	21人(22人)	32人(37人)
1回あたりの平均滞在時間	25.19分	21.94分	18.57分	19.00分
1人当たりの平均滞在時間	29.85分	26.64分	17.72分	21.97分
最短～最長滞在時間	1分～150分	2分～148分	1分～98分	1分～93分
午前に来る人数	21人	22人	8人	18人
午後に来る人数	10人	11人	14人	19人
2人以上来る人数	4人	5人	1人	5人
挨拶又は会話が行われる確率	22/31	28/33	21/22	36/37

4-2. ヒアリング調査による結果及び考察

表5より、回答を頂いた全ての人が挨拶はするよう心掛けているとのことであった。会話に関しては「全然知らない人とも友達に」、「キッチンガーデンの友達を通じてキッチンガーデン外へも友達の輪が広がった」などの意見もあったが、中には「区画の隣近所とはよくおしゃべりはするが遠いと話しにくい」、「話す人とは話すがしない人とはしない」などの意見もあり、それぞれが特定の人と会話をしていることもわかった。特定の人だけではなく、今まで関わりがなかった人とも会話できるきっかけをつくるのが今後の課題である。

表5 キッチンガーデン内での交流について

交流について(キッチンガーデン内)	
【挨拶はするようになっているか】	【参加してから友達が増えたか】
①している 10人	①増えた 9人
②していない 0人	②変わらない 1人
【会話について】	【増えたことにより楽しいと感じるようになったか】
・ 隣近所とはよく話すけど話しにくい	①なった 9人
・ でもしないひとはいない	②変わらない 0人
・ 作業しているときは挨拶だけ	③無回答 1人
・ 会話はたまに	
・ 仲いい人・馴染みの人とは会話する、おすそわけもする	
・ 交流するのが楽しみの一つ	

4-3. アンケート調査による結果及び考察

図1より、「よく参加している」、「ときどき参加している」を定例会へ参加している固定メンバーとして考えると、キッチンガーデン利用者の約6割の方が定例会に参加していることがわかった。参加しない・できない理由としては、「日にちや時間が合わない」の他に「意見を集約しても活かされない」など参加の必要性が感じられないという意見もあった。同様に図2より、「よく参加している」、「ときどき参加している」をイベントへ参加している固定メンバーとして考えると、キッチンガーデン利用者の約5割の方がイベントに参加していることがわかった。しかし中には、「現状のままなら参加したくない」、「イベントにはあまり参加したくない」など現在のイベントに対して批判的な意見やイベント自

体に抵抗感を持つ人もいたことがわかった。したがって、現在の定例会・イベントに参加するからこそ得られるものがある場へとキッチンガーデン利用者へ「参加したい」と思わせる定例会・イベントへ変えていく必要があると考えられる。

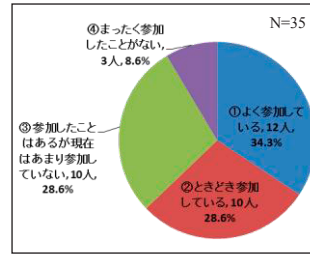


図1 定例会の参加

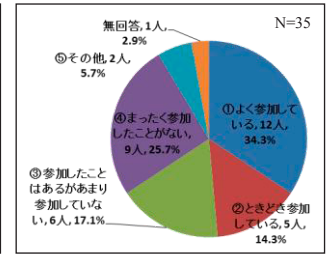


図2 イベントへの参加

5. 結論及び今後の課題

キッチンガーデンの利用者同士で挨拶や会話など何らかのコミュニケーションが浜甲子園キッチンガーデン内で実際に行われていることはわかった。また、菜園知識といった菜園活動への参加特有のコミュニケーションが形成されていることがわかり、浜甲子園キッチンガーデンでの日々の菜園活動自体がキッチンガーデン利用者同士のコミュニティを形成することに非常に役立っていることもわかった。しかし、キッチンガーデン利用者同士のコミュニティは挨拶のみといった浅い関係で止まっていることもわかり、会話をするような親しい関係をつくるには気軽に会話できるきっかけの場が必要である。そこで、キッチンガーデン利用者が多く集まる定例会・イベントを気軽に話ができる場へと変え、相互のコミュニティの形成を促進させるものとして活用していくべきである。今後の課題としては、以下の2点が重要である。

- ① 定例会を野菜・花・土づくりなど菜園活動に関する講演会を開催してみたり、お互いの情報交換をする場を設けたりとキッチンガーデンならではの定例会に変える。参加しないと得ることができない情報や場を提供することで会員の定例会への参加意欲を上げる。
- ② イベントでキッチンガーデン利用者同士お互いを知り、交流を深めることができる場へと工夫を施す。(例：特技の紹介や収穫物の報告、畑の失敗談などお互いを知り交流を深めるためのイベントを行ってみる等)

なお、浜甲子園キッチンガーデンクラブにおけるコミュニティの形成は、現在も発展段階であり、継続した改善を行っていくことで菜園活動を通じたコミュニティの形成はさらに期待できるものと考えられる。

注及び参考文献

- 1) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」推計結果表 出生中位(死亡中位)推計表 1-1
<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Mainmenu.asp>